シベリアオオハシシギ　*Limnodromus semipalmatus* (Blyth)

【選定理由】

日本におけるシギ・チドリ識別の先駆者、高野伸二氏が国内で初めて確認され、識別点が明示されたのを機に県内での記録が始まっている。それ以前は、識別そのものが不可能であった種である。

春と秋に伊勢・三河湾沿岸部の干潟、干拓地や埋立地にある淡水や汽水の湿地に飛来するが、数は極めて少ない。1990 年代初めまでは西尾市の一色地区をはじめ、伊勢・三河湾の沿岸部には、秋の渡りで毎年のように幼鳥が飛来しており、春期に成鳥夏羽の飛来記録も数例ある。現在は国内における確認数も極めて少なくなっており、絶滅の危機に瀕している。国は情報不足と評価しているが、愛知県では 1975 年～1993 年の間に 20 例の飛来記録があり、その大半が秋の幼鳥の記録であることから、愛知県が種本来の中継地であったことに間違いはなく、絶滅危惧ⅠA類と評価された。

【形　態】

全長 33～36cm、翼開長 59cm。夏羽は、頭部から胸にかけて赤褐色で、上面は褐色、背と肩羽、雨覆の軸斑は黒褐色。冬羽は、頭部から上面は灰褐色で羽縁が白色、下面は白色。幼羽は、頭頂および上面が灰褐色。背、肩、三列風切の羽縁が淡黄褐色で、側胸に黄褐色味がある。嘴は黒く、真っ直ぐで長い。

愛知県西尾市, 2013 年 7 月 26 日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

伊勢・三河湾沿岸の干潟や干拓地、埋立地の水たまりなどで年により少数が記録されるが、近年の記録はごく希となっている。

【国内の分布】

春と秋の渡り時期にごく少数が渡来し、北海道、本州、九州の沿岸部で記録がある。

【世界の分布】

ロシアのオビ川流域やバイカル湖周辺、中国東北部などで繁殖し、冬期はインド、インドシナ、オーストラリア北部で生息する。

【生息地の環境／生態的特性】

干潟、干拓地の水田や水路、埋立地の水溜りなど、塩水や汽水、淡水の湿地に飛来し、1～2 羽で記録されることが多い。繁殖地や越冬地などで不明な部分が多いが、県内では特に汽水や淡水の浅い水溜りや湿地に飛来する例が多い。

【現在の生息状況／減少の要因】

西尾市と碧南市の周辺、および汐川干潟周辺などに集中するが、全国で最も飛来頻度の高かった西尾市一色地区の塩田跡が消失するなど、沿岸部の汽水や淡水の湿地環境が激減している。

【保全上の留意点】

東アジアのみに分布する固有種であり、世界的な希少種である。干潟や河口部の湿地を保全するとともに、干拓地や埋立地の遊休部分に汽水や淡水や湿地を復元する努力が必要である。

【特記事項】

1975 年以降、県内では少なくとも 23 例の観察記録があり、愛知県は国内で最も渡来頻度の高い地域であった。最近の記録は 2013 年 7 月 26 日。16 年振りに幼鳥 1 羽が飛来したが、やはり、その場所も過去に国内で最も飛来回数の多かった塩田跡のすぐ隣であった。しかし、その翌年にはこの飛来場所にも太陽光パネルが設置され、塩田跡の周辺からは飛来可能な環境がほとんど消失した。

【関連文献】

真木広造･大西敏一･五百澤日丸, 2014. 決定版 日本の野鳥 650, p.249. 平凡社, 東京.

（高橋伸夫）